「空も飛べるはず」

昭和５８年度、教員２年目に「学級通信」を書き始めました。それから１３年間、ずっと学級通信を書き続けました。

平成８年度、初めての学年主任を任されました。学級担任も兼ねていたので「学級通信」と「学年通信」の“二刀流”に挑みました。その後、行政職として学校現場を離れる年を除いてずっと通信を書き続け、教頭・校長時代の「学校通信」は子どもたちの様子だけでなく、先生方の活躍の様子も発信し続けました。そして、退職後も、三豊市教育委員会学校教育課主任指導主事として、現役の先生方に通信『YAHHO』（ヤッホー）を通して、メッセージを発信しています。

通信のタイトルは、学級・学年目標などと関連させ、『滑走路』『蒼穹』『逆流』『変身』『喝采』『甲子園』『GOAL』などとしました。そんな中で、最も印象に残っているのが、初めての学年主任としての通信『翼 ～空も飛べるはず～』です。

昨年、その学年団から同窓会の案内を受けました。そこで、当時の思い出を『YAHHO』に綴りました。

平成８年度、高瀬中学校で初めての学年主任（１年）を任されたとき、学年目標を『空も飛べるはず』にしました。当時、スピッツが歌っていたTVドラマ『白線流し』の主題歌で、♪君と出会った奇跡がこの胸にあふれてる～、の歌詞を、そのまま新入生に伝えたいと思ったからです。そこで、入学式退場の音楽も、それまでの厳かな曲からこの曲に変えました。難色を示す方もいましたが、「退場は入学式の後だから」と主張し、了解を得ました。そのときから、３年後の卒業式でも、この曲で新しい空へと旅立っていく彼らを見送ろうと考えました。しかし、翌年、人事異動で高瀬中を去ることになってしまいました。でも、私の思いを受け継いでくださった先生方が、その夢を叶えてくれました。

平成31年度（令和元年度）は、定年退職の年でした。今度は、勝間小学校スローガンを『空も飛べるはず』にしました。そして、入学式（始業式）で次のように語りかけました。

【「空も飛べるはず」とは、言い換えれば「可能性への挑戦」です。人間は、自分一人では空を飛ぶことはできません。“タケコプター”もありません。でも、最初から「飛べるはずがない」とあきらめるのではなく、「もしかしたら飛べるかも…」と思ってチャレンジすることが、奇跡を起こすことにつながるかもしれないのです。】

もちろん、入学式後の退場曲もこの歌を流していただきました。そして、保護者の中に、当時の生徒が居ることも“計算尽く”でした。

令和２年３月17日、コロナの影響で縮小された卒業式となりましたが、退場時には『空も飛べるはず』が体育館に響き渡りました。20年以上前に描いた光景を目の当たりにすることができ、教員生活最後に“正夢”になりました。

さらに、同窓会後には、報告を兼ねて下のような文章を『YAHHO』に掲載しました。

５月４日、高瀬中学校を平成１０年度に卒業した学年団の同窓会（２度目の成人式）に出席しました。最初のあいさつを頼まれたので、入学式退場曲をそれまでの厳かな曲からポップな歌に変えたいために管理職を説得したエピソードを伝えると、拍手が湧きあがりました。生徒たちには“裏話”をしたことがなかったので、約３０年前の真実を初めて知らされた驚きからであり、“前例”よりも生徒への“思い”を優先したことが評価されたのだと思いました。

その後、同窓会の幹事から写真が届いたことをきっかけに、老後の楽しみとして当時の学年通信を冊子にまとめることにしました。そして、せっかく冊子にまとめるのであれば、私と同じ教員になっている者や、今も私とつながっている者にも渡したいと考えました。それは、当時の私の年齢（37歳）を超えた今、改めて読み返してもらうことによって、懐かしさだけではなく、私が伝えたかったことにも理解（共感）してもらえるかもしれないと思ったからです。

そこで、編集後記として、『手紙 ～拝啓、かつて１３歳の君へ～』というタイトルで当時の思い出などを綴りました。そして、その最後に下のようなメッセージを添えました。

君たちは、２度目の成人式を終えたばかりです。人生１００年時代では、中間点にも達していません。もしかして、未だに、広い空のどこかで方向を見失って彷徨ったり、翼を休めてみたくなったりすることもあるでしょう。そんなときは、ここに描かれている時代を思い出し、再び翼をはためかせるきっかけにしてください。

「凧が一番高く上がるのは、風に向かっている時である」という言葉があります。逆風に負けない強い翼を身に付けてください。でも、それがキツイと感じたならば、無理をせずに方向を変えればいいのです。追い風になります。

夢や希望を見るのに年齢制限はありません。未来を見続けているかぎり、きっと空も飛べるはずです。

今年、三豊市教育委員会学校教育課６年目に突入しました。当初は、５年を目標にがんばってみようと始めましたが、上記のような“教師冥利”をもっと多くの先生方に伝えたいと思い、もう１年羽ばたいてみようと思います。

もしかすると、最後の１行（青文字部分）は、６５歳の自分へ宛てたメッセージだったのかもしれません・・・。